

去る3月14日、年長組の子どもたちは、幼稚園での思い出を胸に新しい一歩を踏み出しました。毎年のことながら、進級のころと比べるとたくましく成長した年長組は、卒園の前日まで在園の子どもたちにたくさんのことを伝えてくれました。きっと年長児の姿を目に焼き付けた在園児は、4月から新入園児さんをやさしくリードしてくれることと思います。改めて年長組の子どもたちに「ありがとう」の言葉を贈ります。

そんな年長組さんを、先日11日、新施設『クロワッサン』にご招待しました。360度のパノラマが体験できる屋上では、爽やかな春の風を感じながら生活の場である園舎や園庭を眺め、とても喜んでいました。子どもたちです。(詳細はHPをご覧ください。在園児の皆さんは、次年度ご案内の予定です。)

新型コロナウイルスの感染拡大が続く、先の見えない不安感はぬぐえませんが、引き続き、手洗い、うがい、十分な睡眠、バランスのとれた食事、そして戸外での運動等を継続し、明日からの春休みを元気に過ごしてまいりましょう。

## おかあさんに はなしたい

～どんなことを話しているのかな と考えて聞く習慣を～

私たちは園からの情報を文書でご家庭にお伝えする際、できる限りその内容等についても分かりやすい言葉で話し、手紙を配布するようにしています。それは、園からご家庭へお渡しするものは大事なものだということに子ども自身が気づき、“きちんと渡さなければいけない”という意識を持ってもらうためでもあります。

このような生活を送ってきた中、卒園式を翌日に控えた13日。私は、駐車場で次のような場面を目の当たりにしました。お迎えの車に乗ろうとしていた満3歳ちゅうりっぷ組の女児が、持っていた絵本入れの中から筒状のものを取り出し、「いてくれてありがとう」という言葉添えてお母様に手渡したのです。その筒状のものとは、毎年この時期に一年間の係活動にご協力いただいたことへの感謝の気持ちをしたためた園からの『感謝状』でした。(本来は3月開催の保護者会総会時にお渡ししますが、今回はそれが叶わず同日一斉にお配りいたしました。)

きっと満3歳の女児は、お母さんたちが園のためにいろいろなことをしてくださったから、皆が楽しい園生活を送ることができたという話を担任から聞き、感謝の気持ちを伝えたかったのだと私は思いました。また、その行為の背景には、日常的に保護者の方が「今日は何か(話は)なかった?」といった声掛けをしてくださっているからではないかとも感じました。

今回の出来事を通して、日頃から周囲の人の話を注意して聞く習慣がついてきていることを嬉しく思うと同時に、私たち(教師・保護者様)はこれからも子どもたちに分かるような話し方を考え、子どもの声に耳を傾けていくことが大切だと改めて実感しました。

子どもたちの“はなしたい”“伝えたい”という気持ちを園とご家庭とで ともに育んでまいりましょう。

いてくれて  
ありがとう!



【編集後記】保護者の皆様が互いにコミュニケーションを取りながら、子育ての悩みや不安等を気軽に語り合う場として開催している『共育講座』は、今年度で3年が終了しました。多くの皆様と触れ合うことができ、私自身、充実した日々を送らせていただきましたことに感謝申し上げます。また、保護者の皆様からも、お母様同士の横のつながりが広がったという嬉しいお話をいただいています。今後は、仕事を持たれている方でもより参加しやすくなる方法等について、皆様とともに考えてまいりたいと思っております。ご意見等がございましたら、ぜひお寄せください。お待ちいたしております。一年間ありがとうございました。(子育て相談; 北村)